

オショロコマ等に係る長期モニタリングについて（案）

長期的なモニタリングの目的

- 「遺産地域を科学的知見に基づき順応的に管理していくため」
(知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画)
- 「世界遺産としての価値が維持されているか」 (知床世界自然遺産地域管理計画)

1 長期モニタリング計画で定められている内容

(1) 項目名

淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類層を特徴付けるオショロコマの生息状況
(外来種侵入状況調査含む)

(2) 評価項目

- Ⅲ 遺産登録時の生物多様性が維持されていること
- V 河川工作物による影響が軽減されるなど、サケ科魚類の再生産が可能な河川生態系が維持されていること
- VIII 気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること

(3) 評価指標

生息数、水温

(4) 評価基準

- ・資源量が維持されていること、外来種は、根絶、生息情報の最小化
- ・夏季の水温が長期的にみて上昇しないこと

2 具体的な実施方法等について

(1) 対象河川

- ① 選定に当たって考慮すべき点（別紙及び別図）
 - ア 人間によるかく乱
 - ・河川工作物の状況（あるなし、改良の有無）
 - ・釣りの影響
 - イ 調査の容易さ
 - ・調査の際のアクセス
 - ・ヒグマによる影響
 - ウ 既往の調査データとの連続性
 - エ 調査対象河川の配置
 - ・遺産地域のA地区、B地区、及び遺産地域外
 - ・斜里側と羅臼側との配分

②昨年度末時点での河口准教授・谷口准教授・プレック研究所・日本森林技術協会による提案

「遺産地域内を中心とした、10～20河川程度（ウトロ側と羅臼側で半々程度）を選定し、年2～4河川、5年で一巡するようなモニタリングを実施することが望まれる。」

(2) 調査方法

① 生息数

- ・調査対象河川ごとに調査箇所を1カ所設定し、電気ショッカーとタモ網等を用いた定量的調査によりオショロコマを採捕
- ・各パス（パス数は要検討）、魚種毎に個体数を記録するとともに、尾叉長を計測し、個体数密度や個体サイズの頻度分布を把握

② 物理環境の調査

- ・調査箇所における水面幅、水深、河床材料径、流速
- ・河畔林の状況（植被率）

③ 水温の調査

- ・夏季（8月）における水温

④ その他淡水魚（外来種を含む）の記録

- ・上記①生息数調査の際に把握されたオショロコマ以外の魚種について記録

(3) 実施主体

北海道森林管理局

(4) 実施頻度

各河川ごとに5年間隔

(5) その他

オショロコマ以外の淡水魚（外来種を含む）については、他の研究調査等の結果も活用